

第74期  
年次報告書  
2019.4.1～2020.3.31

業績ハイライト

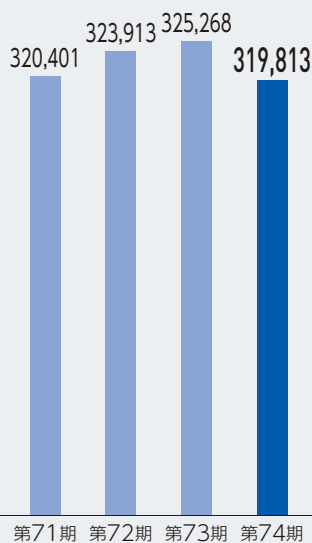
第74期の業績

売上高

319,813 百万円

前年同期比 1.7%減 ↓

(単位:百万円)

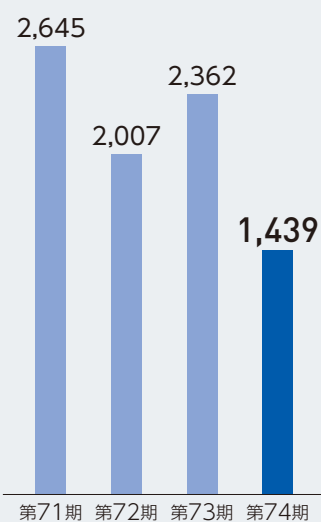


営業利益

1,439 百万円

前年同期比 39.1%減 ↓

(単位:百万円)

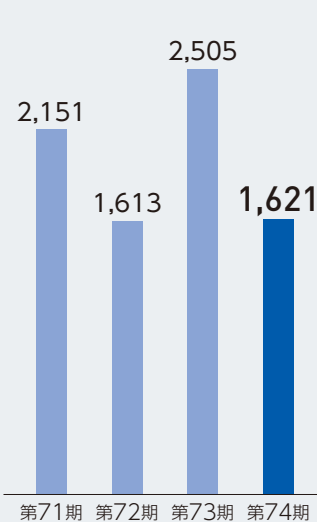


経常利益

1,621 百万円

前年同期比 35.3%減 ↓

(単位:百万円)

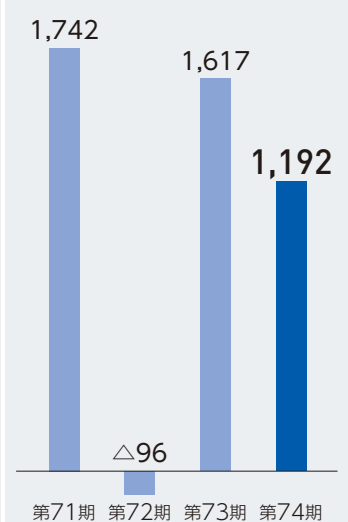


親会社株主に帰属する  
当期純利益

1,192 百万円

前年同期比 26.3%減 ↓

(単位:百万円)



2021年3月期の連結業績予想については、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を現時点では合理的に算定することが困難であるため、未定とさせていただきます。今後、業績予想の算定が可能となった時点で速やかに公表いたします。



## グループの総合力を最大限に発揮し、 顧客が求める価値を提供してまいります。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当社第74期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）の  
事業および財務の概況のご報告を申し上げます。

2020年6月

代表取締役社長 **勝田 昇**

### 事業の経過およびその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、第3四半期連結累計期間においては、景気の回復には中国経済減速の影響等により輸出や生産の一部に弱い動きがみられるものの、企業収益、雇用・所得環境、個人消費、設備投資は総じて堅調であり、全体として緩やかな回復基調にありました。

しかしながら、第4四半期に入ると、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による国内外の経済活動の停滞から、景気は急速に悪化しており、極めて厳しい状況にあります。

足元では、企業収益、雇用情勢、個人消費、輸出、生産に急速な悪化や弱い動きがみられます。消費者心理は、新型コロナウイルスの終息やその後の雇用・所得環境などの経済情勢の先行き不透明感から極めて厳しい状況にあります。また、消費者購買行動は、新型コロナウイルス拡大防止に伴う外出自粛から食料品などの日常品購買が中心になっていますが、節約志向は依然として続いています。

水産物流通業界におきましては、第2四半期連結累計期間においては、輸入水産物および国内水産物とも一部高騰魚種に

ついては価格調整局面にあったものの、総じて調達価格は高い水準にありました。第3四半期においては、価格調整が進行し販売価格は下落傾向にあり、また、サンマ等の不漁により販売数量が減少するなど収益確保が難しい状況にありました。第4四半期に入ると、特に3月頃から新型コロナウイルス拡大防止に伴う入国制限や外出自粛の影響により、外食・ホテル・百貨店関連の需要が急激に落ち込み、業種・業態の垣根を越えた販売競争が繰り広げられる中、極めて厳しい経営環境下にありました。

このような環境にあつて、当社グループは、全体最適のグループ経営のもと、販売力・調達力の強化、顧客起点志向の追求、地域に対応したソリューションの提供、業務の効率化、諸経費の節減などに注力し積極的な事業活動を展開してまいりました。

当連結会計年度の経営成績は、売上高は3,198億13百万円（前年同期比98.3%）となりました。損益面では、売上総利益は230億22百万円（前年同期比97.2%）となり、営業利益14億39百万円（前年同期比60.9%）、経常利益16億21百万円（前年同期比64.7%）、親会社株主に帰属する当期純利益11億92百万円（前年同期比73.7%）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### <水産物荷受事業>

中央卸売市場を核とする集荷販売機能をもつ水産物荷受事業は、販売単価は若干上昇したものの取扱数量の減少により売上高2,001億83百万円（前年同期比95.7%）となり、間接経費全般の節減に努めましたが売上総利益率の低下によりセグメント利益10億9百万円（前年同期比64.9%）となりました。

#### <市場外水産物卸売事業>

全国各地を網羅する販売拠点を活かした幅広い流通網をもつ市場外水産物卸売事業は、一部魚種の相場下落等により販売単価は低下したものの販売数量の増加により売上高1,173億43百万円（前年同期比102.3%）となり、売上高の増加、売上総利益率の改善によりセグメント利益1億11百万円（前年同期はセグメント損失1億33百万円）となりました。

#### <養殖事業>

九州、四国にて、ハマチ、ブリ、マグロの養殖を展開する養殖事業は、販売単価は低下したものの販売数量の増加により売上高96億78百万円（前年同期比102.8%）となりましたが、販売費の増加などによりセグメント利益2億90百万円（前年同期比36.5%）となりました。

#### <食品加工事業>

消費地にある食品加工センターでの水産加工、量販店向けの米飯加工、カット野菜加工、飲食事業者向けの加工・調理サービスなどを行う食品加工事業は、販売数量の増加により売上高48億59百万円（前年同期比103.2%）となりましたが、売上総利益率の低下等に加え、新型コロナウイルスの影響による需要の減少によりセグメント損失2億6百万円（前年同期はセグメント損失65百万円）となりました。

#### <物流事業>

物流センターにおいて、搬入された水産物等を量販店等の配送先別に仕分け、自社便にて配送を行う物流事業は、取扱い数量の減少により売上高19億74百万円（前年同期比96.7%）、

セグメント損失29百万円（前年同期はセグメント損失36百万円）となりました。

#### <その他>

グループの水産物流通を補完するリース事業等その他は、売上高50億88百万円（前年同期比98.1%）、セグメント利益1億26百万円（前年同期比139.8%）となりました。

### 対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルスが終息し、その後の国内外の経済活動が回復するには相応の時間を要するものと想定され、厳しい経済情勢が続くものと見込まれます。

水産物流通業界におきましては、新型コロナウイルスの影響により、仕入面では輸入水産物については調達が一部制約を受け、また、販売面では外食・ホテル・百貨店関連の需要低迷が継続し、海外での感染状況により輸出業務が滞るなどの事態が懸念されます。

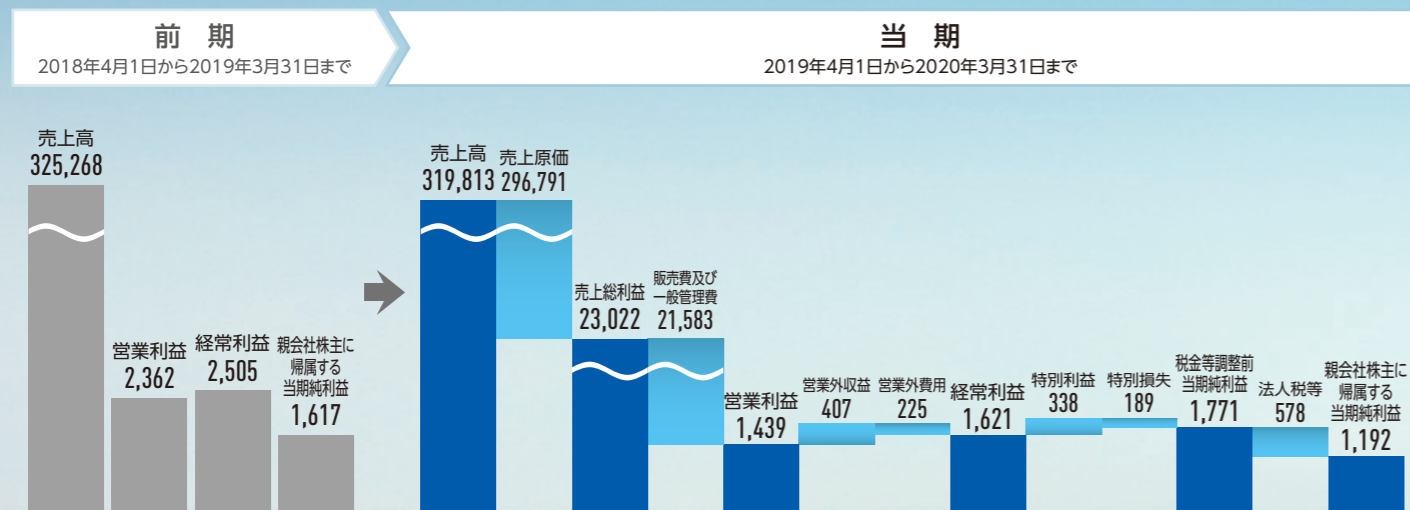
このような状況の中、消費者の日常消費に対する節約志向は継続し、業種・業態の垣根を越えた販売競争が継続するなど厳しい経営環境下にあると予測されます。

当社グループは、新型コロナウイルスの感染拡大および業績への影響を最小限に抑えるべく注力します。あわせてコア事業である「水産物荷受事業」および「市場外水産物卸売事業」、また、コア事業を支える「養殖事業」の事業基盤の強化を図るとともに、グループ内の加工機能、物流機能を最大限活用し、グループ総合力の発揮により顧客が求める価値を提供してまいります。そのためにグループ一體的な取組みを更に推進していくことを踏まえ、グループ各社における経営管理体制および経営基盤の強化に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

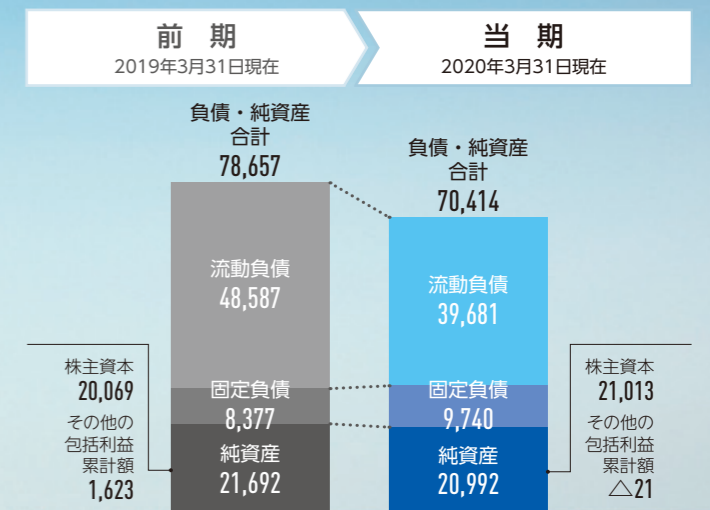
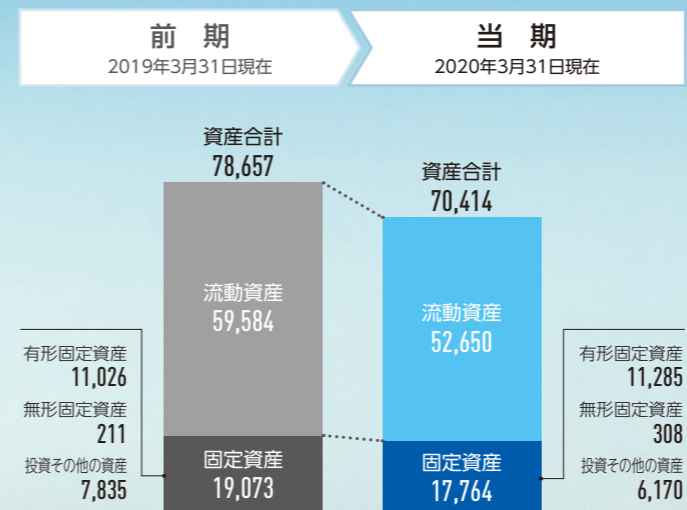
### 連結財務諸表（要約）

#### 連結損益計算書のポイント（単位：百万円）



（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

#### 連結貸借対照表のポイント（単位：百万円）



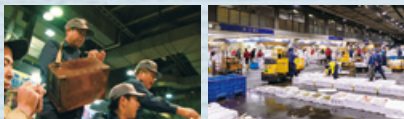
（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。



水産物荷受  
事業

株式会社うおいち

株式会社うおいちは、近畿圏の卸売市場に拠点を構え、OUGグループの中核として水産物荷受事業を行っています。大阪市中央卸売市場本場の「うおいち大阪」、同東部市場の「うおいち東部」、大阪府中央卸売市場の「うおいち北部」、和歌山市中央卸売市場の「うおいち和歌山」、滋賀県の大津市公設地方卸売市場の「うおいち滋賀」と、それぞれの卸売市場で営業活動を行っています。同社では、各地域の顧客のニーズに対応するために、川上の産地情報や川下の顧客情報を共有する卸売市場間のネットワークを構築しています。このような活動を通じ、水産物の調達力や販売力をより強化し、近畿圏はもちろんのこと、全国各地へ安全で安心な水産物を安定的に供給しています。



市場外水産物卸売  
事業

株式会社ショクリュウ

株式会社ショクリュウは、水産物を中心とした食品専門商社として、国内外から多種多様な水産物を調達し、量販店、外食産業、ホテル、飲食店、食品加工業者等のさまざまなお客様への販売を行っています。同社は、北海道、東北、関東、中部、近畿、中四国、九州と全国の各地域に営業拠点を持っており、地域密着型の営業活動を展開しています。また、調達、加工、販売、配送までの一貫したサプライチェーンの構築により、顧客起点のマーケティングを充実させて、「お客様により近い」商品を国内外に提供しています。



養殖事業

株式会社兵殖

株式会社兵殖は、九州・四国近海に7つの養殖場を有し、ブリ・クロマグロを中心に養殖を行い、高品質の養殖魚を国内外に出荷しています。同社では一般的に使用される生簀（いけす）より広くて深い「ひろびろいけす」を設置してブリの養殖を行い、同社のブランド「ひろびろいけすぶり」として販売しています。さらに、大分県の豊後水道の豊饒な海で養殖したクロマグロをブランド化し、「豊後まぐろ ヨコゾーナ」として販売しています。また、同社は日本で初めて養殖場から加工場に至るすべての生産ラインにおいて、HACCP認証を取得し、安全・安心で新鮮な養殖魚を食卓に届けています。同社は海外輸出にも積極的に取り組んでおり、大分県の津久見工場は養殖ブリの加工においてEU向け輸出の水産食品取扱施設に認定されています。



食品加工  
事業

関空トレーディング株式会社

関空トレーディング株式会社は、関西国際空港の対岸に位置する「りんくうタウン」において、OUG加工センターを運営し、サーモンを主体に、鮮魚・冷凍魚の消費地加工を行っています。同センターは、水産食品加工施設としてHACCP認証を取得しており、安全・安心で高鮮度の加工製品を製造しています。同社の製品は、主に近畿圏にある量販店、スーパー、外食産業などのお客様に販売しています。



食品加工  
事業

ダイワサミット株式会社

ダイワサミット株式会社は、大阪港舞洲食品流通センター内に炊飯加工工場を構え、ご飯・おにぎり・お寿司などの製造・加工を行っています。製造・加工した食品は、量販店・スーパー・外食店などを中心に販売しています。また、学校給食向けにも販売しています。同社は、炊飯から製造・加工までのすべての生産ラインにおいてHACCP認証を取得しています。食品の製造・出荷の工程では徹底した衛生管理を行い、お客様に安全・安心な食品をお届けしています。



食品加工  
事業

株式会社トウニチ水産

株式会社トウニチ水産は、主力製品であるお刺身用の大根のケンの製造、野菜の加工を行っており、量販店などに販売しています。ケンの製造に使用する大根については、産地の協力のもとで計画的かつ、質の高い大根の調達を行っています。また、製造・加工においては、独自の技術を駆使し、徹底した品質管理のもとで、高鮮度な製品づくりを行っています。同社のケンは、「おいしくて、張りがあり、日持ちがよい」とお客様から高い評価を受けています。



物流事業

舞洲流通センター株式会社

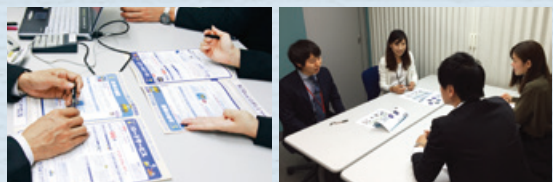
舞洲流通センター株式会社は、グループの物流業務を担う会社です。大阪港舞洲食品流通センター内において、全国の産地、メーカーから入荷された生鮮食品や加工食品を仕分けし、365日毎日、お客様にお届けしています。同社では、取扱品の内容に応じ、3つの温度帯（常温、冷蔵、冷凍）で適切な管理を行っています。また、同社ではグループ会社の通信販売やホテル・百貨店のギフトの受注から配送まで一貫した業務も行っていきます。



保険・リース  
事業

株式会社トップ

株式会社トップは、グループ各社で使用する車両や機械、設備機器、パソコンなどの資産のリースやグループの従業員に対する自動車保険、傷害保険、医療保険の販売などを行っています。グループのリース対応業務や従業員の福利厚生をより充実させるために、ニーズに対応した商品・サービスを提供しています。



## 株式会社 兵殖

## 養殖ブリの輸出事業が認められ、「農林水産省食料産業局長賞」を受賞。

当社グループの株式会社兵殖は、同社の養殖ブリの輸出事業が認められ、輸出に取り組む優良事業者として、農林水産省食料産業局長賞を受賞しました。2019年12月13日には、東京都千代田区で開催された農林水産物等輸出促進全国協議会総会において、江藤農林水産大臣から同賞の表彰状が授与されました。

農林水産省では、農林水産物・食品の輸出促進対策の一環として、国産の農林水産物や食品の輸出促進に取り組む事業者を募集し、その中から特に優良と認められた事業者が「令和元年度輸出に取り組む優良事業者」として表彰されました。応募は115の事業者からあり、その中から農林水産大臣賞4事業者、食料産業局長賞6事業者が選出されました。

同社では、通常のいけすの48倍もある「ひろびろいけす」で養殖した運動量豊富なブリを、水揚げから2時間以内にHACCP認証工場で加工し、冷蔵（チルド）の状態国内にとどまらず、北米・アジア・EU諸国へ向けて出荷しています。また、輸出にあたっては、北米へは三枚おろしに加工したものの、アジアへは加工せず原体のものなどを、輸出先の国々の食文化に合わせた形態で出荷しています。

このような養殖ブリの海外輸出への取り組みが、政府が進める農林水産物・食品の輸出促進に寄与していると認められ今回の受賞となりました。

同社は、MEL（マリン・エコラベル・ジャパン）の養殖認証を取得しており、今後大きな需要が見込まれるEUへ向けて、冷蔵ブリの輸出を拡大していきたいと考えています。また、養殖クロマグロ「豊後まぐろ ヨコヅーナ」についても、中国をはじめ海外への輸出を強化してまいります。



日本食海外普及功労者表彰および輸出に取り組む優良事業者表彰の各受賞者  
(写真の出典元: [https://www.maff.go.jp/j/p\\_gal/min/191213.html](https://www.maff.go.jp/j/p_gal/min/191213.html))

同社の最新ニュースを発信しております。ぜひご覧ください。 <https://hyoshoku.com>

## 株主優待制度変更のお知らせ

## 1. 変更の理由

当社では、長期にわたり当社株式を保有していただいている株主の皆様のご支援に感謝するとともに、今後もより多くの株主の皆様へ長期にわたり当社株式を保有していただきたく、「株主優待制度」を実施しております。

当社では、2017年（平成29年）10月1日付で単元株式数を1,000株から100株に変更するとともに、株式を併合（10株を1株に併合）したことにより、贈呈基準である保有株式数の基準単位を変更いたしました。また、より多くの株主の皆様へ長期にわたり当社株式を保有していただくことを目的に、従来の「保有株式数別」の基準に加えて、新たに「継続保有期間別」の基準も取り入れました。

当社では、下記の内容のとおり、保有株式数および保有期間に応じて、株主優待品をご用意し、株主の皆様へ贈呈いたします。

## 2. 変更後の内容

| 贈呈基準 | 保有株式数別および継続保有期間別(3年以上・3年未満)の基準で贈呈   | 2021年9月30日（基準日）以降の優待内容 |        |                                  |
|------|---|------------------------|--------|----------------------------------|
|      |   | 保有株式数                  | 継続保有期間 | 優待内容                             |
| 対象株主 | 1単元(100株)以上の株主様   | 100株以上<br>500株未満       | 3年未満   | 2,000円相当の水産加工品<br>(当社指定品) 贈呈     |
|      |   |                        | 3年以上 ※ | 4,000円相当の水産加工品<br>(数品目から1品選択) 贈呈 |
| 実施時期 | 継続保有期間の起算日は2018年9月30日とし、従前の制度からの変更にあたり、3年間の猶予期間を設け、2021年9月30日(基準日)から下記の内容で実施いたします。なお、猶予期間中においては、経過措置として従前の制度と同等の内容で実施いたします。(下記「3.経過措置の内容」をご参照ください。) | 500株以上                 | 3年未満   | 4,000円相当の水産加工品<br>(当社指定品) 贈呈     |
|      |   |                        | 3年以上 ※ | 8,000円相当の水産加工品<br>(数品目から1品選択) 贈呈 |
| 基準日  | 2021年9月30日以降の毎年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主様   |                        |        |                                  |
| 贈呈時期 | 毎年12月初旬に贈呈  |                        |        |                                  |

※「継続保有期間3年以上」とは、毎年9月30日および3月31日において、同一株主番号で連続して7回以上、株主名簿に記載または記録されていることといたします。

## 3. 経過措置の内容

猶予期間中の優待内容については、下記のとおり実施いたします。

| 贈呈基準 | 保有株式数別の基準で贈呈  | 保有株式数            | 優待内容                             |
|------|---|------------------|----------------------------------|
| 対象株主 | 1単元(100株)以上の株主様   | 100株以上<br>500株未満 | 3,500円相当の水産加工品<br>(数品目から1品選択) 贈呈 |
| 基準日  | 2018年9月30日(実施済)、2019年9月30日(実施済)、<br>2020年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主様 |                  |                                  |
| 贈呈時期 | 基準日と同年の12月初旬に贈呈   |                  |                                  |
|      |   | 500株以上           | 7,000円相当の水産加工品<br>(数品目から1品選択) 贈呈 |

会社概要

(2020年3月31日現在)

|         |   |
|---------|---|
| 社名      | OUGホールディングス株式会社   |
| 主要な事業内容 | 定款に定められた事業を営むこと、ならびに定款で定められた事業を営む会社およびこれに相当する事業を営む外国会社の株式もしくは持分を保有することにより、当該会社の事業活動を支配、管理することおよびこれに関連する業務を行うことを目的としております。 |
| 設立      | 1946年6月12日（創業1947年10月1日）  |
| 資本金     | 6,495百万円  |
| 発行済株式総数 | 5,562,292株  |
| 従業員数    | 連結1,399名 単独25名  |

役員の体制

(2020年3月31日現在)

|      |         |               |
|------|---------|---------------|
| 取締役  | 代表取締役社長 | 勝田 昇          |
|      | 取締役     | 増田 安利         |
|      | 取締役     | 中江 一夫         |
|      | 取締役     | 橋爪 康至         |
|      | 取締役     | 梅島 信也         |
|      | 取締役     | 三浦 正晴 (社外取締役) |
|      | 取締役     | 荻野 義明 (社外取締役) |
| 監査役  | 常勤監査役   | 玉田 耕也         |
|      | 監査役     | 和田 徹 (社外監査役)  |
|      | 監査役     | 伊藤 博通 (社外監査役) |
|      | 監査役     | 小竹 伸幸 (社外監査役) |
| 相談役  | 相談役     | 谷川 正俊         |
| 執行役員 | 執行役員    | 岡田 雅之         |
|      | 執行役員    | 山田 稔          |

株主メモ

|                     |   |
|---------------------|---|
| 事業年度                | 4月1日から翌年3月31日まで   |
| 期末配当金受領株主確定日        | 3月31日   |
| 定時株主総会              | 毎年6月  |
| 単元株式数               | 100株  |
| 株主名簿管理人<br>特別口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社   |
| 同連絡先                | 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部<br>〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号<br>TEL 0120-094-777 (通話料無料) |

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更等の各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続き用紙のご請求につきましては、三菱UFJ信託銀行(特別口座管理機関)の上記連絡先の電話(受付時間:土日・祝祭日等を除く平日9:00~17:00)およびインターネット(24時間)でも承っております。  
<https://www.tr.muifg.jp/daikou/>

|           |  |
|-----------|--|
| 上場金融商品取引所 | 東京証券取引所市場第一部(証券コード8041)  |
| 公告方法      | 電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。<br>公告掲載の当社ホームページアドレス<br><a href="https://www.oug.co.jp">https://www.oug.co.jp</a> |

免責条項  
本年次報告書に掲載している将来に関する予想については、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。  
実際の業績は、さまざまな要因の変化により、異なる場合があることをご承知おきください。

株式の状況

(2020年3月31日現在)

|          |             |
|----------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 20,915,900株 |
| 発行済株式の総数 | 5,562,292株  |
| 株主数      | 11,487名     |

大株主 (上位11名)

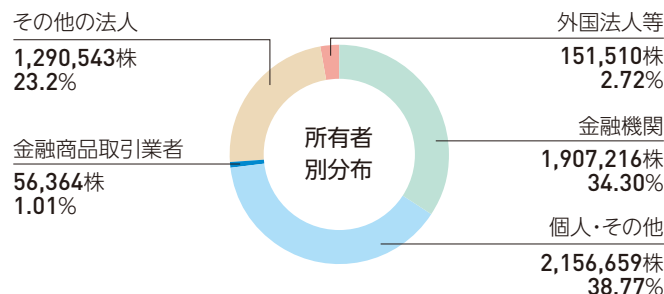
(2020年3月31日現在)

| 株主名  | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|--|---------|---------|
| マルハニチロ株式会社   | 745     | 13.42   |
| 日本生命保険相互会社   | 265     | 4.77    |
| 農林中央金庫   | 263     | 4.75    |
| 株式会社りそな銀行  | 184     | 3.32    |
| 株式会社みずほ銀行  | 175     | 3.15    |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社  | 151     | 2.74    |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)                                | 144     | 2.60    |
| OUGグループ従業員持株会  | 119     | 2.15    |
| 株式会社三菱UFJ銀行  | 115     | 2.07    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・株式会社大丸松坂屋百貨店退職給付信託口) | 115     | 2.07    |
| 丸大食品株式会社   | 115     | 2.07    |

(注)持株比率は、自己株式(11,830株)を控除して計算しております。

株式分布状況

(2020年3月31日現在)



Web Information

当社ホームページでは、当社の最新ニュースを株主・投資家の皆様に向け、発信しております。IRニュースや決算発表のページ、動画によるグループ各社の紹介、優待品を掲載した株主優待のページなど様々な情報を掲載しておりますので、ぜひご利用ください。



<https://www.oug.co.jp>

OUGホールディングス株式会社

〒553-0005 大阪市福島区野田二丁目13番5号 うおいちニッセイビル5階  
TEL:06-4804-3031 FAX:06-4804-3145



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。